

【下部消化管内視鏡（大腸カメラ）検査・治療の説明書および同意書】

1. 目的と必要性

内視鏡を肛門から挿入し大腸をカメラで直接観察します。炎症、ポリープ、がんなどの異常がないかを調べます。異常を認めた場合、病変組織の一部を採取(生検)、ポリープ切除などの検査を行うことができます。

2. 検査前日および当日の注意事項

□検査前日

- 午後9時までに夕食(内容は右記参照)を済ませてください。
- 眠前に下剤(ピコスルファート液 10ml 1本)をコップ1杯の水に溶かして飲んでください。

□検査当日

- 朝は絶食です。

【来院されて下剤を飲まれる方】

- 8:30にご来院ください。
- 水1L**をご持参ください。
- 下剤(480ml)**と**水1L**を飲んでいただきます。
- 排便し、水のような状態になると検査の準備は完了です。

詳細はこちら →



【ご自宅で下剤を飲まれる方】

- ご自宅で**下剤(480ml)**と**水1L**を飲んでからご来院いただきます。(右記参照)
- 排便し、水のような状態になると検査の準備は完了です。
- 予約時間にご来院ください。

詳細はこちら →



- 検査着に着替えていただき鎮静剤や鎮痛剤の注射を行います。
- 検査を開始します。所要時間は15~30分程度の予定です。
- 検査後は休憩室で休んでいただいてから、検査結果を報告します。(12時前後の予定)

3. 検査後の注意点

- 検査当日は**帰宅後も車・バイク・自転車の運転は控えてください。**
- 検査当日は飲酒は控えてください。
- ポリープ切除をした場合は、切除面からの出血のリスクがあるため、1週間は飲酒・ジョギングやジムなどの激しい運動は控えてください。

4. 偶発症

- 薬剤によるアレルギー、鎮静剤や鎮痛剤による呼吸状態の悪化や血圧低下、内視鏡による出血や穿孔(穴が開くこと)などが主な偶発症です。輸血や手術が必要となることがあります。
- 偶発症の発生確率は1/8000程度と稀ですが、症状によっては入院や手術が必要であったり、生命にかかわることもあります。
- 万が一、偶発症が発生した場合は最善の処置および対応を行います。

5. 代替可能な検査

- 大腸の検査は、内視鏡検査以外に、バリウム用いた注腸検査や、大腸CT検査などがあります。しかし、これらの検査では異常を認めた場合に組織検査やポリープ切除はできません。

— 大腸カメラ検査を受ける方へ 事前準備のお願い —

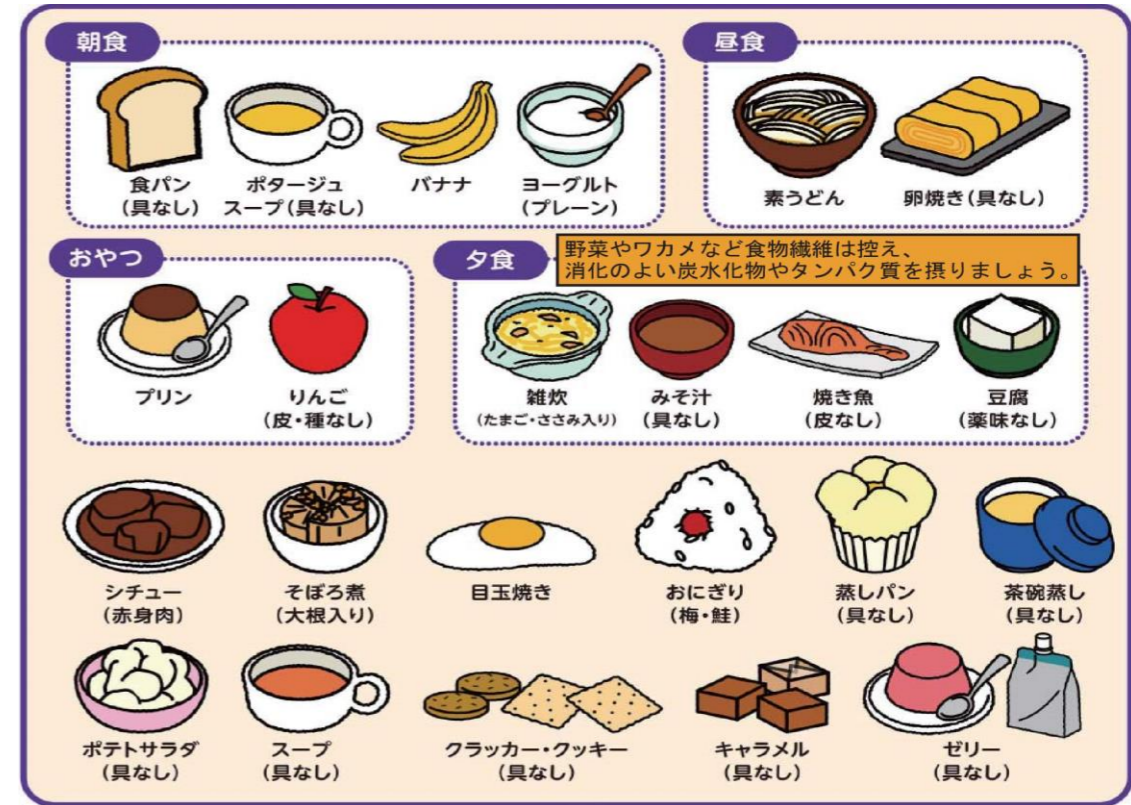
正確な検査を行うために、腸をきれいにさせていただきます。

繊維質の多いものは避けていただき、消化の良いものを摂っていただきます。

※事前準備をしっかりとしないと検査に時間を要したり、検査が受けられない場合もあります。

【検査前日 おすすめメニュー】

※水分は多めに摂ってください



【検査当日】

朝食は摂らないでください。(水は可)



ご自宅での下剤の内服方法

① サルプレップ(下剤)



7:00~7:30

→ 480mlを内服

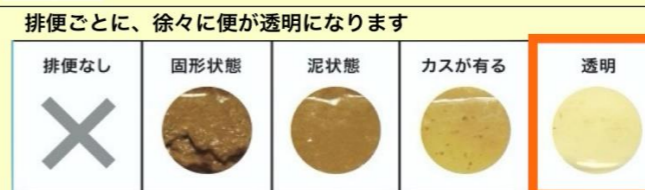
② 水



7:30~8:00

→ 1000mlを内服

※一気に内服せず
①②それぞれ30分かけて
内服します



排便ごとに、徐々に便が透明になります

便がほぼ透明になれば
OK!!